

## 兵庫県立長田商業高等学校 学校評価(職員用)

学校教育目標	<p>知・徳・体の調和のとれた学び続ける人づくりを目指す。</p> <p>① 基礎・基本の確実な定着を図り、一人一人に学ぶことの楽しさや喜びを通して達成感を体得させるとともに豊かな個性を伸ばす教育を充実させ、進路実現を図る。</p> <p>② 人間としてのあり方や生き方を自覚させ、ふるさとを愛し、向上心をもって人生をよりよく生きる心の教育の充実を図る。</p> <p>③ 生涯にわたり心身の健康を保持・増進していくための資質・能力の育成を図る。</p>
目指す学校像	<p>① 生徒が学ぶ喜びを知り生涯学習の基本と規律を身につけ、生徒も教職員も共に成長し続ける学校</p> <p>② 良き友や師との出会いを通してコミュニケーションを大切に作る居心地のよい学校</p> <p>③ 学校運営全般において全教職員が一致団結し和を大切に作る学校</p> <p>④ 家庭や地域と連携し、ふるさとを愛し互いに支え合う学校</p>

回答方法 4. 非常によくあてはまる 3. おおむねあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. あてはまらない \*記述も出来る限り記入してください。

評価の観点	評価項目	番号	実践目標	評価	記述
学校運営	学校組織の活性化	1	各部・学年が教育目標及び重点目標の下、PDCAサイクルによる改善をはかりながら協働的・組織的な取組を行っている。	3.39 (3.05)	①体験の実践的な学びを実現するために、創造ビジネス科への学科改編や株式会社設立に向け、協働的・組織的に取り組んだ。
	保護者や地域とともにある学校づくり	2	ホームページの更新やデンタくんだよりの発行を行い、学校の情報や魅力等を発信している。	3.56 (3.67)	①SNSなども活用しほぼ毎日において情報を発信できた。
		3	人間的なふれあいを基盤とし、生徒・保護者・教員・地域が教育活動を通して互いに信頼できる関係づくりを推進している。	3.33 (2.95)	①保護者の協力が得られず、連携が図れないことがしばしばあった。
	商業高校としての魅力づくり	4	商業科としての魅力を生かし、生徒の特性に合わせながら多様な商業科目に主体的に取り組ませている。	3.56 (3.52)	
		5	学校設定科目「ビジネススキル」や「キャリアアップ」等の学習指導と併せキャリア形成を促し、自己の将来に希望を持ち目標を設定し学習に取り組むことができる生徒を育てている。	3.28 (3.24)	①自己の将来に希望を持っているが、目標を設定できていない。
	学校評議員制度等の活用	6	学校評議員等学校関係者による意見を積極的に取り入れるとともに、社会的資源を活用しながら学校運営を行っている。	3.44 (3.19)	①SNSを活用した広報活動は、学校評議員の意見を反映して注力した。 ②社会的資源の活用が今後の課題である。
	働きやすい職場環境づくり	7	教職員の勤務時間の適正化に向けた取組を行い、教職員の健康に配慮した校内体制を構築している。	3.33 (3.62)	①教職員の健康に配慮した校内体制の構築がのぞまれる。
教職員資質向上	校内研修による教職員の資質向上	8	授業改善や生徒指導に活かすため、学校の課題に沿った校内研修を充実させている。	3.56 (3.52)	①特にICT利活用の校内研修を重点的に実施した。 ②先進校視察として県外の6校に訪問し、延べ18人の教職員が研修を行った。
	授業実践力の向上	9	公開授業週間を年2回実施し、互見授業を積極的に実施するなど、教員の授業力の向上を図っている。	3.72 (3.62)	
		10	ICTを活用した授業、教科横断的な指導、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善が図られている。	3.28 (3.43)	①教科横断的な指導は難しいが、教員間での打ち合わせの機会があればよいと思った。
生徒指導	生徒の内面的理解	11	個人面談を実施するとともに、保護者と綿密な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行っている。	3.61 (3.33)	①保護者の協力が得られない。
		12	生徒情報交換会・ケース会議等で生徒に係る情報を職員が共有し、生徒の内面的理解や生徒の状況把握に努めている。	3.72 (3.43)	
		13	発達障害やLGBT、日本語教育の必要な生徒等多様な個性・ニーズに合わせた教育活動を推進している。また、必要に応じて合理的配慮を行っている。	3.56 (3.38)	①日本語教育の必要な生徒に、専門の教員が、補習という形で日本語教育を行った。

評価の観点	評価項目	番号	実践目標	評価	
生徒指導	基本的生活習慣等規範意識の醸成	14	あいさつ・言葉遣い・服装などの基本的な生活習慣を身につけさせている。	3.00 (2.57)	①生徒が挨拶をしない。
	教育相談の充実	15	多様化する生徒に対応するため、キャンパスカウンセラーによる教育相談を充実させている。	3.50 (3.57)	
	健やかな体と豊かなこころの育成	16	生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、生徒と教員の信頼関係にもとづいた適切な指導を行っている。	3.44 (3.19)	
		17	生徒指導講演会や保健講話等を実施して、健全な生活を送るために必要な資質を養っている。	3.56 (3.48)	
進路指導	生徒・保護者に対する進路情報提供の充実	18	進路ガイダンスやインターンシップ等を活用して、継続的なキャリアガイダンスの充実に努めている。	3.39 (3.14)	
		19	「進路のしおり」を作成し、進路指導の充実を図っている。	3.39 (2.95)	
	進路に対する個別指導の充実と進路実現	20	生徒一人一人の特徴を把握し、長所を生かした進路実現に向けての指導を行っている。	3.28 (3.14)	
生徒の学び	確かな学力の育成	21	基礎的・基本的知識・技能の定着を図り、これらを活用して、課題解決するための探究的な学習を推進している。	3.50 (3.05)	①基礎基本の定着をいっそうはかるべきである。
	カリキュラムマネジメント	22	社会や地域との接点を持ちつつ、生徒が未来を切りひらく力を身につけるように教育課程の改善を図っている。	3.67 (3.38)	
	生徒の学習状況に応じた学びの体制の確立	23	生徒の状況を適切に把握した上で、習熟度別授業や少人数授業を適切に実施し、個に応じた学習指導を行っている。	3.72 (3.62)	
	外部人材の活用	24	外部からの講師を積極的かつ有効に活用し、生徒に幅広い学びの場を提供している。	3.67 (3.52)	
特別活動	学校行事の充実	25	生徒会を中心とした校内活動を充実させることで、自尊感情や社会とのつながり意識を高揚させている。	3.22 (3.05)	①コロナ禍で活動の制限を余儀なくされた。
	人権教育・多文化共生教育の推進	26	人権映画鑑賞会等を実施し、生徒の人権感覚の涵養に努めている。	3.28 (3.33)	
		27	人権教育LHRを計画的に実施し、自他を肯定する態度と共生社会実現への実践力を高めている。	3.28 (3.33)	
危機管理体制	教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上	28	学校防災マニュアルを適宜見直し、家庭・地域等と連携した危機管理体制を構築している。	3.33 (3.29)	①地域の消防署からの協力が得られていない。
		29	防災訓練を通して、生徒自身が災害時に適切に判断し、主体的に行動する力を育成している。	3.56 (3.29)	
	安全な学校づくり	30	救急救命講習の受講により、いかなる時にもまず人命を守るという、教職員の意識と技術を高めている。	3.33 (3.52)	
	生徒の安心・安全	31	いじめアンケートを実施し、生徒のいじめ防止や自殺予防に向けた職員研修に取り組み、速やかな情報の共有と対応に努めている。	3.61 (3.52)	
	情報モラルの育成	32	SNSに係るトラブルについて授業や講演会等あらゆる機会を通して、情報モラルの向上を図っている。	3.67 (3.48)	